

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	3	事業名	国道道路改築事業		路線又は箇所名等		国道 356 号 小見川東庄バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	昭和 59 年度	用地着手年度	昭和 60 年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成 4 年度 平成 25 年度	再評価の理由	⑥		
費用便益比 B/C	2.0	総費用	31 億円	総便益	62 億円	基準年	平成 20 年度	供用開始 年度	平成 25 年度

【事業概要】

国道 356 号は、銚子市から我孫子市に至る総延長約 96km の一般国道であり、起点の国道 124 号と国道 126 号との交差点部から終点の国道 6 号まで、利根川に沿って北総地域北部を横断する重要な幹線道路である。

小見川東庄バイパスは、国道 356 号の小見川市街地の交通混雑解消等を目的として整備する、延長 8.7km (2 車線) の道路であり、全体事業費は約 68 億円を見込んでいる。

現在、終点側 (香取市小見川) から 1.7km 区間を供用しており、今年度末に供用を予定している県道旭笹川線までの 3.0km 区間を加え、供用済み延長の合計は 4.7km となる。

【事業の進捗状況】

	全体	未供用区間		
		区間小計	投資済	残
延長 (km)	8.7	4.0	—	—
事業費 (億円)	68.0	27.8	10.0 [36.1%]	17.8
うち用地補償費 (億円)	9.4	2.0	1.3 [63.4%]	0.7

※ [ ] 内は進捗率を示す

【社会経済情勢等】

- ・ 国道 356 号は、緊急輸送道路 (1 次路線) に指定されている。
- ・ 小見川東庄バイパスでは、事業効果の早期発現を図るため全体を 3 工区に分割し、順次供用を図りながら整備を進めており、今年度末までに終点側の 2 工区を供用する予定である。
- ・ 今年度末に供用予定の第 2 工区の用地取得にあたり、工事に伴う騒音等、施工方法について、地権者の理解を得るのに時間を要し、事業期間が長期化している。
- ・ 国道 356 号小見川東庄バイパス計画区間における現道の状況
  - ①日交通量 (H17 センサ: 平日) は、約 13,400 台/日となっている。  
朝夕のピーク時には、小見川大橋交差点 (香取市小見川地先) などで、900m 程度の渋滞が発生しており、通過に 20 分程度を要している。
  - ②死傷事故は、交差点部を中心に毎年約 40 件発生しており、特に、小見川市街地での死傷事故が多くなっている。
  - ③沿道には、小学校が多く、大部分が通学路に指定されているが、歩道の設置率が低く、歩行に危険な状況となっている。
  - ④JR 成田線の踏切が 2 箇所あり、1 日 50 本程度の列車が運行している。
- ・ 小見川東庄バイパスでは、現在、供用済み区間が 1.7km と短いため、交通の転換が十分図られていないが、今年度末の 3.0km 区間の供用により、転換が促進されるものと期待されている。

【対応方針 (案)】

**継続**

小見川東庄バイパスは、混雑している現道交通のうち通過交通を分担し、物流活動の円滑化や走行の安全性向上に寄与するとともに、通学路に指定されている現道の走行性・安全性の向上も期待される道路である。

工区分割により、段階的に供用を図ることとしており、供用延長が伸びることにより、現道からバイパスへの交通の転換が円滑に進むものと考えられる。評価対象区間の現道部では、渋滞の発生が懸念されるとともに、通学路の安全確保などが課題となっており、小見川東庄バイパスの持つ整備効果を十分に発現させるには、評価対象区間の整備が不可欠である。

評価対象区間の用地取得は完了しており、この区間の早期供用に向けて、継続して事業を推進する。

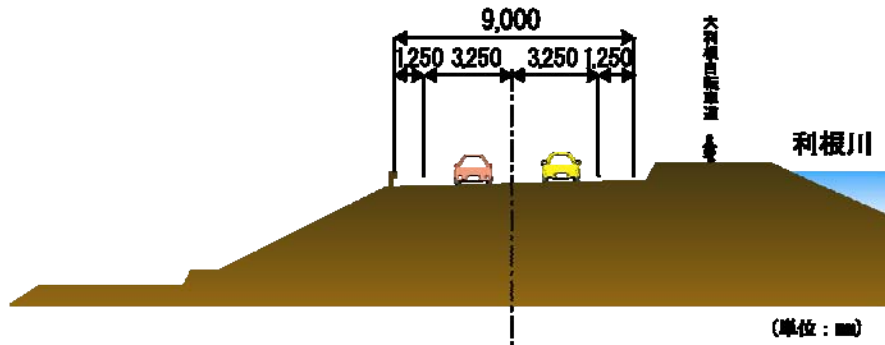
事業概要図

番号	3	事業名	国道 道路改築事業	路線又は箇所名等	国道 356 号 小見川東庄バイパス
----	---	-----	--------------	----------	-----------------------

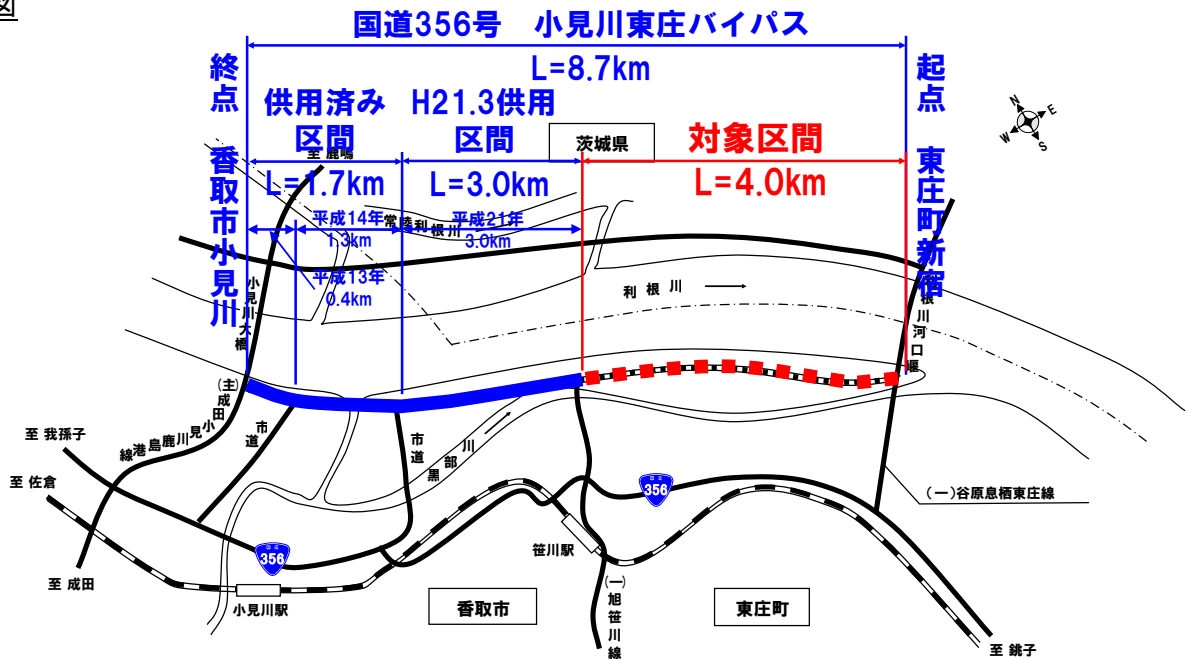
位置図



標準断面図



平面図



【別紙様式 5】

## 再々評価事業に関する調書

番 号	3	事 業 名	国道道路改築事業	路線又は箇所名等	国道 356 号 小見川東庄バイパス
事業化年度	昭和 59 年度	用地着手年度	昭和 60 年度	工事着手年度	平成 4 年度

## 【再評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 15 年	供用開始年度	平成 19 年度	対応方針	継続
B/C	1.6	総費用	55 億円	総便益	87 億円

再評価時の委員会の意見及び当時の状況  
継続することが妥当である。

## 再評価時の進捗状況及び再評価時想定 of 5 年後の進捗状況

	計 画	進捗状況 (H15)	5 年後の想定進捗状況 (H20)
全体事業費	60.0 億円	67.5%	100.0%
用地取得面積	61,885 m <sup>2</sup>	100.0%	100.0%
供用面積 (延長)	8.7km	1.7km	8.7km

## 【再々評価の概要】

再評価実施年度 (基準年)	平成 20 年	供用開始年度	平成 25 年度	対応方針	継続
B/C	2.0	総費用	31 億円	総便益	62 億円

## 現在の進捗状況

	計 画	進捗状況
全体事業費	68.0 億円	73.9%
用地取得面積	63,921 m <sup>2</sup>	100.0%
供用面積 (延長)	8.7km	4.7km

再評価後の  
経過  
及び  
処理状況

- ・平成 15 年 再評価 (継続が妥当である)
- ・平成 21 年 3 月 3.0km が供用予定
- ・平成 20 年度末 4.0km が未供用

## 【再評価時との相違点】

- ・供用区間の延伸に伴い評価対象区間が変更 (7.0km → 4.0km)
- ・用地取得の難航から供用開始年度が遅延
- ・地元調整によるルート変更で用地取得面積が増加